

平成27年度第 1 回
札幌市総合教育会議
会議録

平成27年度第1回総合教育会議

1 日 時 平成27年7月27日（月） 16時～17時

2 場 所 ニューオータニイン札幌 2階 鶴の間

3 出席者 札幌市長 秋元 克広
副市長 町田 隆敏
教育長 長岡 豊彦
教育委員 山中 善夫
池田 光司
池田 官司
阿部 夕子

事務局	教育委員会教育次長	大友 裕之
	生涯学習部長	長谷川 雅英
	総務課長	竹村 真一
	教育政策担当課長	加藤 聖治
	庶務係長	井上 達雄
	教育政策担当係長	堀川 信乃
	教育政策担当係長	野切 卓
	庶務係	松本 淳吾
	教育政策担当	大脇 章広

4 傍聴者 17名 （報道関係者7名含む）

5 議 題

（1）札幌市総合教育会議運営要綱（案）及び傍聴に関する要領（案）について

（2）札幌市の教育等の振興に関する「大綱」について

【開 会】

○長谷川生涯学習部長 定刻となりましたので、ただいまから、平成27年度第1回札幌市総合教育会議を開会いたします。

本日の進行を務めます札幌市教育委員会生涯学習部長の長谷川と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず初めに、資料の確認をお願いいたします。

お手元には、第1回総合教育会議の次第、座席表、第1回総合教育会議資料、札幌市教育振興基本計画の概要版のパンフレットと本編の以上5点をお配りしております。ございますでしょうか。

それでは、初めに、この総合教育会議の概要につきまして、私からご説明を申し上げます。

既にご承知のところとは存じますが、改めて、資料1をご覧くださいければと思います。

1、総合教育会議についての（1）設置の根拠・目的でございます。

この総合教育会議は、平成27年4月1日に、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が施行されたことに伴いまして、市長が各地方公共団体に設置することとなったものでございます。

次に、設置の目的でございますが、市長と教育委員会が直接対話をする機会を設けることで、両者が十分な意思疎通を図り、より一層、民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的としております。

本市では、これまでも市長と教育委員会が協議する場はございましたが、今回、そのような場が法的に整備されたということになります。

続きまして、（2）のこの会議の位置づけについてでございますが、重要な施策等を決定する場ではなく、市長と教育委員会の協議・調整を行う場でございます。

続きまして、2の協議・調整事項をご覧ください。

ここでは、この会議で協議・調整を行う内容についてお示ししております。

（1）では、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定める大綱について協議を行うこととしております。

大綱につきましては、この後、議題で詳しくご説明を差し上げたいと思います。

（2）をご覧ください。

この会議では、教育を行うための諸条件の整備、その他地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため、重点的に講ずべき施策について協議・調整を行うことを想定してございます。

次に（３）になりますが、児童生徒等の命や身体に被害が生じた場合、または、まさに被害が生じると見込まれる場合などに講ずべき措置につきましても協議・調整を行うこととしております。

続きまして、３の審議の調整結果をご覧くださいと思います。

市長と教育委員会は、調整のついた事項について、その結果を尊重しなければならないとしております。

また、調整がつかなかった事項につきましては、それぞれが所管する事務の執行権限に基づき、市長と教育委員会それぞれが判断することとなります。

以上が総合教育会議の概要でございます。

前段の説明が長くなって恐縮ではございますが、本日は、第１回目ということもございまして、説明事項等が多少多くなっておりますことをあらかじめご了承ください。

【出席者自己紹介】

○長谷川生涯学習部長　ここで、出席者の皆様から自己紹介をお願いいたします。

秋元市長から町田副市長と時計回りにお願いいたします。

申し遅れましたが、本日は、教育委員会を所管する町田副市長にもご出席をいただいております。よろしくお願いいたします。

では、市長、よろしくお願いいたします。

○秋元市長　札幌市長の秋元克広でございます。

今日は、第１回になりますけれども、札幌市総合教育会議を開催させていただきました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○町田副市長　副市長を５月から務めております町田でございます。改めまして、よろしくお願いいたします。

○池田（光）委員　池田光司と言います。よろしくお願いいたします。

○阿部委員　教育委員の阿部夕子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○長岡教育長　教育長の長岡でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○池田（官）委員　教育委員の池田官司でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

いたします。

○山中委員 教育委員の山中善夫でございます。よろしくお願いいたします。

○長谷川生涯学習部長 ありがとうございます。

なお、本日、臼井博教育委員につきましては、やむを得ない事情により欠席する旨のご連絡をいただいております。

【市長挨拶】

○長谷川生涯学習部長 それでは、第1回総合教育会議の開催に当たりまして、主催者でございます秋元市長からご挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。

○秋元市長 改めまして、本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。教育長を始め、教育委員の皆様、第1回目の総合教育会議開催のご案内をさせていただきました。

日ごろから、皆様方には、札幌市の教育に関しまして、お力添えをいただいておりますことに、この場をお借りして厚く御礼申し上げたいと存じます。

先ほど、生涯学習部長からご説明をさせていただきましたように、総合教育会議というのは、市長である私と教育長、教育委員の皆様方と、札幌の教育や子どもたちの教育のあり方についてさまざまな議論をさせていただく場でございます。

教育の大綱ということで、基本的な方針について議論をさせていただくことになりますし、私は予算に関する権限を持っておりますので、それが実際の教育現場の課題にしっかりと対応できているのかどうかなど、いろいろなご意見を頂戴しながら、相互に物事を進めていければと思っております。

この場は、子どもの未来や札幌の教育の大きな方針について議論させていただくという意味では、大変重要な会議の位置づけになっていくだろうと思います。子どもたちを取り巻く環境は大きく変化を迎えておりますし、札幌だけではなく、日本全体がこれから少子・超高齢化社会の中で大きなかじ取りをしていかなければならない状況です。そうした中であっても、子どもたちが将来への夢や希望を持って健やかに過ごしていけるよう子ども一人一人の生きる力をしっかりと育んでいく、そういう環境整備をわれわれ大人が行っていかなければなりません。また、社会全体の中で子どもを育てていくということにしっかりと取り組んでいかなければならないと思っております。

教育委員の皆様方と私ども執行機関である市長部局とは、これまでもいろい

ろな意見交換、調整をさせていただいてきましたが、今回、こうした会議の場で皆様方と直接お話をすることができましたので、例えば、私がどのようなまちづくりを進め、その中で教育をどう考えていくのか、また教育委員の皆様方からは、札幌の教育をこうしていきたい、あるいはこうあってほしいというようなことを直接お話し合いができることは大変うれしく思っております。

今後、この場を札幌の子どもたちの環境整備のために有効に活用させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○長谷川生涯学習部長 ありがとうございます。

【教育長挨拶】

○長谷川生涯学習部長 続きまして、長岡教育長からご挨拶をお願いいたします。

○長岡教育長 教育長の長岡でございます。

教育委員会を代表いたしまして、一言、ご挨拶をさせていただきます。

本日は、お忙しい中、貴重なお時間をいただきまして、ありがとうございます。

新たな教育委員会制度のもと、この総合教育会議が開催されることになりました。市長がお話しのとおり、これまでも連携は十分に図ってきていたと考えておりますけれども、今後、より一層、連携を密にいたしまして、教育行政のさらなる推進を図る仕組みができたことは非常に心強いものと考えてございます。

現下の社会状況において、子どもたちを取り巻く教育環境はさまざまな課題を抱えております。また、学校現場では、教員の多忙化が進んでおり、先生方は、多くの仕事を抱えながら、子どもたちと向き合う時間を最大限確保しようと日々努力をいただいているところでございます。

そのような中、先日、岩手県において、中学生がいじめによりみずから命を絶つという非常に痛ましい事故がございました。いじめは決して許されるものではございませんが、子どもたちが社会性、人間性を身につけていく成長に過程において起こり得る問題であるのかなというふうにも考えてございます。

子どもたちが自他を尊重し、自己肯定感、自己有用感を高め、主体的にいじめをなくす意識を高めていくことが何より必要であるというふうに考えてございまして、全ての教職員、また、全ての家庭の力を結集して、いじめが起らないよう全力で取り組まなければならないものと決意を強くしているところでございます。

新たな教育委員会制度のもと、今回、この総合教育会議が設置されることになりましたが、ぜひこの場を生かし、全ての子どもたちのために、学校教育の充実はもちろん、教育課題の解決を図ってまいりたいと考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。

○長谷川生涯学習部長　ありがとうございました。

【議　　事】

（１）札幌市総合教育会議運営要綱（案）及び傍聴に関する要領（案）について

○長谷川生涯学習部長　それでは、議事に入らせていただきたいと思います。

議題（１）札幌市総合教育会議運営要綱及び傍聴に関する要領（案）についてでございます。

資料２－１、２－２をご覧くださいと思います。

資料２－１は総合教育会議の運営について、資料２－２は傍聴に関する取り決めの案についてお示しをさせていただいております。

ポイントとなる条文のみご説明をさせていただきます。

まず、資料２－１の第５条でございますが、総合教育会議は、原則として公開することとしております。ただし、個人の秘密を保つ必要があると認めるとき、会議の公正が害されるおそれがあると認めるとき、公益上必要があると認めるときは、市長がこの総合教育会議に諮り、非公開とすることができるとしております。

非公開となる案件でございますが、具体的には、いじめ等の事案で個人情報保護を保護する必要がある場合などを想定してございます。

続きまして、第６条の会議の傍聴に関してでございますが、必要な事項は別に定めるということにしております。

資料２－２になりますけれども、その要領の案をお示ししております。

ここでは、傍聴人の遵守事項等を定めてございます。

以上が総合教育会議の運営に関する要綱（案）及び傍聴に関する要領（案）でございます。

今後、不備等がございましたら適宜見直しをさせていただきたいと考えておりますが、今回から、この運営要綱、傍聴に関する要領に基づき会議を運営してまいりたいと考えておりますけれども、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○長谷川生涯学習部長　ありがとうございます。

それでは、よろしくお願いいたします。

（２）札幌市の教育等の振興に関する「大綱」について

○長谷川生涯学習部長　続きまして、議題（２）札幌市の教育等の振興に関する「大綱」についてでございます。

この策定に向けまして、まずは大綱の位置付け等について確認をしたいと思っております。

資料は３－１、３－２になります。

まず、１の大綱とは何かということでございますが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第１条の３では、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるものとしております。

なお、大綱に記載された内容について、市長及び教育委員会で調整がついた事項につきましては、双方に尊重義務があるとしております。

２の趣旨についてでございますが、地域住民の意向を教育行政へより一層反映させるとともに、地方公共団体における教育、学術及び文化の振興に関する施策の総合的な推進を図るためとしております。

次に、策定の手続と策定者についてでございますが、市長と教育委員会がこの総合教育会議の場で協議・調整を行い、市長が大綱を定めるものとしてございます。

４の大綱の内容をご覧いただければと思います。

まず、国の教育振興基本計画の基本的な方針を参考にして策定するものとしてございます。

続きまして、大綱は、教育、学術、文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるものでございます。従いまして、詳細な施策の策定を求めるものではないとしてございます。

三つ目になりますが、教育のほか、学術、文化、スポーツも大綱に記載する対象とはなりますが、地域の実情に応じて策定するものであり、必ずしも網羅的に定めるものではないとしてございます。

四つ目になりますが、地方公共団体において、教育振興基本計画を定めている場合には、その中の目標や施策の根本となる方針の部分が大綱に該当すると考えられますことから、市長がこの会議において教育委員会と協議・調整し、当該計画を大綱に代えると判断した場合には、別途、大綱を策定する必要はな

いとしてございます。

最後に、五つ目の大綱の対象とする期間についてでございますが、市長の任期が4年であることや、国の教育振興基本計画の対象期間が5年であることを鑑み、4年から5年程度を想定してございます。

以上が大綱の説明となりますが、資料3-2では、両面刷りで、名古屋市と新潟市の大綱をお示ししておりますので、参考までにご覧いただければと思います。

ただいま申し上げましたとおり、大綱は、総合教育会議での協議を経て、地方公共団体の長が策定することとなっております。

まず、市長から、大綱の策定などにつきましてご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○秋元市長 私の政策の方針の中にも、子どもたちが健やかに育つ街さっぽろを実現したいというものがあります。そういった中で、この大綱の策定に当たりましては、この実現に向けた教育への思いを教育委員、教育委員会の皆さんと共有しながら検討を進めていきたいと思っております。

一方で、内容の（4）に、地方公共団体においては、教育振興基本計画を定めている場合には、それを大綱に代えることができるとありますので、一旦、策定に向けて、札幌市の教育振興基本計画の概要について共有できればと考えていますので、教育長から説明をいただけますでしょうか。

○長岡教育長 私から、札幌市教育振興基本計画の概要についてご説明申し上げます。

お手元に概要版をお配りさせていただいてございますので、ご覧いただければと思います。

まず、1ページをご覧ください。

この計画は、教育基本法第17条第2項に規定される地方公共団体が策定する教育の振興のための施策に関する基本的な計画として、平成25年に策定したものでございます。

策定に当たっては、札幌市の総合計画でございます札幌市まちづくり戦略ビジョンとの整合性も図ってございます。

計画は、平成26年度からの10年間を見据えた札幌市教育ビジョンと前期5年間の札幌市教育アクションプランから成っております。

概要版の3ページ、4ページをご覧ください。

本計画では、札幌市の教育が目指す人間像として自立した札幌人を掲げてございます。自立した札幌人とは、「未来に向かって創造的に考え、主体的に行

動する人」「心豊かで自他を尊重し、共に高め合い、支え合う人」「ふるさと札幌を心にもち、国際的な視野で学び続ける人」を表しております。

4 ページにございますとおり、「自立」という言葉には、自己肯定感や自己有用感と、ともに支え合いながら生きていく共生の思いを併せ持つという意味が込められております。

また、札幌人は、ふるさと札幌への思いを心に持ち、伝統や文化を尊重しつつ、国際的な視野を持って、札幌をはじめ、さまざまな地域や国で活躍する姿を表現してございます。

この人間像を実現するための基本的な方向性として、3 ページ下段にございますが、「自ら学び、共に生きる力を培う学びの推進」「多様な学びを支える環境の充実」「市民ぐるみで支え合う仕組みづくり」の三つを掲げております。

これらに沿って前期アクションプランでは、概要版の5 ページ、6 ページのとおり、14の基本施策と37の施策を展開しております。

7 ページからは、前期アクションプランの重要項目を掲載してございます。

一つ目の分かる・できる・楽しい授業の推進、二つ目の課題探求的な学習の推進に続き、以降、9 ページの地域に開かれた学校まで、九つの取り組みを掲げてございます。

中でも、未来の札幌を担う子どもたちにとって、さまざまな問題を解決する能力を身に付けることは極めて重要と認識してございまして、自ら疑問や課題を持ち、主体的に解決する課題探求的な学習には特に力を入れてまいりたいと考えてございます。

平成32年から順次実施予定の次期学習指導要領に文部科学省が盛り込む動きのございますアクティブ・ラーニング、すなわち課題の発見と解決に向けて主体的、協働的に学ぶ学習とまさに方向性を同じくするものでございます。

そうした学習を通して、物事に真摯に向き合う姿勢を子どもたちに見つけてもらうことが、学ぶ力のみならず、豊かな心や健やか身体の育成にもつながり、子どもたちの生きる力を育んでいくものと考えてございます。

計画に基づく取り組みについては、毎年度の成果や課題を評価検証し、施策の推進や改善につなげることとしてございます。

法律に基づいて毎年実施してございます教育委員会事務の点検評価では、抽出した施策に係る成果、効果等の詳細な検討や、10ページに掲載してございます成果指標の検証を通じてアクションプランの進行管理を行っております。

今年度は、特別支援教育の推進、教職員の資質、能力の向上、学校における教育の情報化を取り上げ、5月から教育委員の皆さんとともに検討を進めているところでございます。

8月末には点検評価の結果がまとまる見通しでございまして、内容は、議会

に報告するとともに、市民の皆様にも公表する予定でございます。

説明は以上でございます。

○秋元市長 ありがとうございました。

私としては、札幌市の教育ビジョンに掲げられている札幌市の教育が目指す人間像、自立した札幌人ということで、ここに「未来に向かって創造的に考え、主体的に行動する人」「心豊かで自他を尊重し、共に高め合い、支え合う人」「ふるさと札幌を心にもち、国際的な視野で学び続ける人」とありますけれども、このこと自体は、私が目指していこうとする札幌のまちづくりの方向性と合致しているという認識であります。

そういう意味で、この大綱の策定に向けては、教育振興基本計画をベースに検討していきたいと思っておりますけれども、いかがでございますか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○秋元市長 ありがとうございました。

それでは、そのように進めさせていただきたいと思っております。

○長谷川生涯学習部長 それでは、ここで大綱の策定に向けまして、ただいまご説明のあった本市の教育振興基本計画の策定にご尽力くださいました教育委員の皆様から、教育に対する思いやご意見などをお聞かせいただければと存じます。

最初に、山中善夫教育委員からお願いいたします。

○山中委員 ただいまご紹介いただきました山中でございます。

札幌市の教育等の振興に関する大綱の策定に向けて、教育に対する思いなどを述べるようにということでありますので、感想的なことではございますけれども、若干申し上げたいと思っております。

このたびの教育委員会制度の改革によりまして、先ほどからお話がございましたように、公式に市長と教育について意見交換をする機会をこのように設けていただきました。そしてまた、これもご紹介がございましたけれども、これまでも毎年1回あるいは2回、市長とざくばらんに意見を交換する機会を持たせていただいております。そういう中で、いろいろな教育問題につきまして協議をし、札幌市の教育について語り合い、理解を深めてきたように思っております。

今回、こういう会議が公式に開催されることになりましたことを機に、さら

に一層、相互理解を深めていきたいと思っております。

私も、教育委員あるいは教育委員長を経験させていただきまして、改めて教育というものは本当に大変で、非常に重要な仕事だということを痛感しております。

よく言われますけれども、教育には正解がないという言葉がございます。実際にこうすれば必ず解決するという特効薬もございません。そしてまた、本当にたくさんの課題がございます。そういったたくさんの課題に、日々、子どもたちのために悩みながら、情熱を持って取り組んでくださっている多くの教育関係者の姿を見ると、本当に敬服いたします。

私が、昨年、大変感動した言葉として、マララ・ユスフザイさんの、「一人の子ども、一人の教師、一冊の本、そして一本のペンが世界を変えるのです」という言葉がございます。女子教育の重要性を訴え、迫害に負けずに頑張っ

てこられて、ノーベル平和賞を受賞されました。マララさんがおっしゃることは、私も本当にそうだなというように思います。

先ほど、市長からも生きる力を大切にしていきたいというお話がございました。教育というのは、生きる力のもとでもあります。夢を与える、夢を持つということを教育で推進していくことは、生きるためにも大事なことです。そして、教育は子どもを変え、ひいては世界を変えていく、そのためにも夢というものが大事なのです。大きい夢、小さい夢、いろいろな夢があるでしょう。札幌市の教育も、ぜひ、子どもたちの夢を持つ力をはぐくみ、その夢を実現する力を育てていくようなものでありたいと思っております。

先ほど、教育長からご紹介いただいた教育振興基本計画の自立した札幌人というものも未来志向であり、そういう夢を大切にする気持ち、思いがこもっておりますし、市長もその方向で今後進めていきたいということで大変心強く思う次第でございます。

公立学校での教育というのは、子どもたちのさまざまな特性、能力、発達段階、発達度合いの違い、家庭の事情、多くの保護者のさまざまな意見、そういったものをできるだけ発展的かつ、統一していくよう進めていかなければならないという大変難しい面も持っていると思います。その難しさを乗り越えながら、現実的な施策、対応を行っていくには本当に細やかな配慮が必要です。教育委員会関係者の皆さんは、これまで本当に努力をしてくられましたので、そうした経験を生かして、今後も教育に取り組んでいただきたいと思います。

他方、教育委員会のやり方につきましては、スピード感や即効性が不足しているとの意見もございますが、画一的な指導や対策では解決しない、効果が上がらない問題が多々あります。さらには、短期的な見方ではなくて、先を見据えた対応を求められている場合も多いと思います。

教育委員会の制度は、経験に裏打ちされた現場の意見を大事にしながら、他方、第三者的にといいますか、専門的な学識経験や一般社会の良識、常識、あるいは保護者の要望、意見などを考慮しながら、さまざまな角度から検討して、よりよい手法を選び、教育委員会全体が一致して課題の解決に向けて努力していかなければならない、そういう制度になっているかと思います。それは、一方で、スピード感の不足と言われるもとでもあります、多くの方々の知恵や経験を生かして、それをもとによりよい教育にしていこうということは非常に大事だと感じております。

私も、職業的には弁護士という専門的な職業を持っていますが、教育に関しては全くの素人と言ってよいほどでございます。しかし、そういう素人的な感覚も非常に大事なものではないかと思っております。私は、教育委員会において教育委員を務めさせていただく中で、今後、市長ともいろいろ議論をさせていただき、子どもたちのためによりよい教育をつくっていくに当たりましては、専門家というよりは、私個人としては一般的な素人的な発想あるいはアプローチを大事にしていきたいと思っております。

今後とも、札幌市の子どもたちの将来のために、ぜひ一緒に手を携えて頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○長谷川生涯学習部長 ありがとうございました。

続きまして、池田光司教育委員からお願いいたします。

○池田（光）委員 ご紹介いただきました池田光司でございます。

菓子作りの会社を経営しているのですが、企業と比べると、教育というのはいつも相反するテーマが多く、悩んでいた教育委員の時代が随分多かったです。

というのは、企業ですと、数値が見えるので、その目標も達成しやすいのですが、教育というのは数字が表れません。つまり学力等の点数のほかに、一人一人の子どもの個性や能力を加えた上で、一人の人として評価しなければならないということです。

私は、そこがいつも大きな悩みで、教育委員を務められるのだろうか悩んだことも随分あります。しかし、最近、我が社の社員と学校の子どもたちには、一つの共通項があるなと私は感じました。一言で申しますと、目は放せ、心は放すなということです。要するに、社員に伸び伸び活動させるけれども、いつも彼らのこと思い、彼らと気持ちや心で結びついているのです。

教育現場を視察に行っても、最近そのことをつくづく感じます。教員は子どもたちに過保護でもいいけないし、どんどん自由にするような放任でもだめです

が、いつも子どもたちと気持ちは通じています。これは教育現場でも企業でも同じなので、そこが接点なのではないかと思っています。私は、そのことをいつも思いながら教育委員会会議に臨ませていただいております。

今、市長と教育長から基本方針が出まして、私も含めて非常に考えが一致するところが多く、安心しておりますし、それをさらに発展させていくのが私たちのこれからの役目だなと思っています。

私は、1年間の中で、会社の会議も含めていろいろな会議に出ておりますが、実は、教育委員会の会議の時間が最も多いです。それだけ複雑で重要度があり、一つ一つの選択が非常に重く、もっともっと勉強しなければならない、そう思えるくらい、教育委員会での仕事は重要な位置づけになっていると思って取り組んでおります。私は、教育委員会の委員ですけれども、教育の現場と教育委員会、行政が一体となり、かつ開かれた教育委員会になるように、門戸を広げて活動しなければならないということを改めて感じております。

最近、昨今の少子高齢化の中で、人口の変化に伴う教育のあり方についても根本的に議論しなければならない問題が多いと感じておりますが、郷土愛、ふるさとを思う気持ち、ふるさとの自信があれば、どんなことでもやり遂げられると感じています。このふるさとの教育も含めたますます魅力あるまちづくりに、秋元市長、町田副市長、教育長を始め、行政と一体となって、教育委員会の業務に取り組んでいきたいです。

本日は、こうした会議を開いていただきまして、本当にありがとうございました。

○長谷川生涯学習部長 ありがとうございます。

続きまして、池田官司教育委員からお願いをいたします。

○池田（官）委員 教育委員を拝命しております池田官司です。

私は、こうして教育委員を務めさせていただくようになってから、教育というものの持つ複雑さや多様さということに改めて目を開かされました。

私は、精神科の医者なのですが、そういった立場から、教育に関することについて、レイパーソン、一般の市民の一人として、素人の視点を失わないようにして発言できればと考えてきました。

これまで、教育委員会会議は、非常に自由闊達な雰囲気、今申し上げたようなことを幾ばくかなりとも発言することができたとしたら、非常にありがたいことだと思っています。

私は、札幌市の教育が目指す人間像の中でも、「心豊かで自他を尊重し、共に高め合い、支え合う人」というところに非常に関心があります。恐らく、児童生徒たちも心の問題はいろいろ抱えておまして、端的に言いますと、自殺、

いじめの問題というものがあると思います。自殺の防止やいじめ対策には、自他を尊重し、自分に対して肯定感を持って、かつ少数者や多様性に対する寛容さ、認め合う心がぜひとも必要だと思います。

具体的には、相談窓口として、スクールカウンセラー、あるいは、それぞれの先生方がいらっしゃると思うのですが、その根底に、札幌市の教育が目指す人間像などでうたっております自己肯定感と多様な価値観を認めていく心がぜひとも必要であろうと思います。

そういった児童生徒の心を支えていくためには、やはり、教員の皆様が健全であるということも非常に重要だと思いますので、現場で教育に当たられている皆様、教育委員会の事務の皆様など、教育に携わる方たちのメンタルヘルスについても注目していきたいなと考えています。

教育委員になってから、札幌市の目指す人間像、札幌市が考える学力観について考えたのですが、改めていろいろ学ぶことがあり、やはり課題を探究し、問題を解決していくということが非常に重要だと感じました。

これは、ただ単に、いわゆる試験で点数をとれるとか、ある選抜に勝ち抜けるような力があるだけではなく、自ら身近な課題について考えて、それに対してどのように解決していけばよいのかという方策を考えることができる力を養っていく、そういう学力観が札幌市の教育が目指す人間像に含まれていると思いますので、そういったことも重視し、着目していければと思います。

最後に、評価と点検が非常に大事なのであろうということも教育委員になって改めて感じました。

医学や医療の世界では、エビデンス・ベースト・メディシン（科学的根拠に基づく医療）という言葉が非常に強調されるようになりまして、どんな結果が出ているのかということを常に検証しながら進んでいくといった考え方が重視されています。ただ、教育に関しては、結果の評価は短期的にはできないものだと思います。成果指標とか事務点検評価などを通して、短期的な評価はもちろんしていかなければならないことですが、これは、実際に札幌市で教育を受けた方たちが10年後、20年後にどのような社会貢献をするのか、どのような姿で輝いておられるのかということが真の評価になると思います。そういった長期的な評価が本質的な評価なのだと頭を置きつつ、中期的、短期的な評価についても積極的に行っていければ、よりよくなると感じております。

○長谷川生涯学習部長 ありがとうございました。

続きまして、阿部夕子教育委員からお願いをいたします。

○阿部委員 ただいまご紹介いただきました阿部夕子と申します。どうぞよろ

しくお願いいたします。

私は、保護者という立場で教育委員として参加させていただいているのですが、子どもが生後2カ月のときから働いており、現在子どもは15歳になりました。そうした経験の中から、子どもに関する課題や悩みは子どもの年齢によってさまざま変わってくるのだなということを、自分自身の子育てによって非常に痛感しているところです。

例えば、私が仕事をしていたということもありますが、子どもが小学校1年生に入学する際に小学校の情報をなかなか得ることができませんでした。そのときに、小学校の情報を地域の方たちが教えてくれたことが今でも非常に印象に残っています。普段から利用しているクリーニング屋のおばさんとスーパーのおばさんが、あちらの小学校はこう、こちらの小学校はこう、という私にとっては非常に有益な情報を教えてくださったのです。中学校に入学するときも、地域に住んでいる保護者の方から中学校の情報をいただいて、それが非常に役立ったことを覚えています。

今、社会では、「小1の壁」「中1ギャップ」という言葉があります。これは進学のタイミングで保護者も子どもも新しい環境にうまくなじめないというのですが、そうした進学の際などにさまざまな困難を感じる方が多いと思います。今、私は子育てや育児支援を行う会社を運営しており、仕事を通して、いろいろなお母さんとお話しするのですが、100人の保護者のお母さんと話をすると、100通りの課題を抱えています。そういったさまざまな課題を乗り越えていくには、地域の方や同じ保護者同士で支え合うということが非常に重要なのだと思っています。

先ほど市長からお話がありました、自立した札幌人という教育方針の下のようにある基本的方向性というところに、「市民ぐるみで支え合う仕組みづくり」という非常によい言葉が載っています。私のように自分自身で情報をつかみに行くという人はもちろんいると思うのですが、周りから情報を得られて助けられることは非常に多いはずで、やはり、教育委員会だけでなく、地域や保護者の方といかに連携しながら進めていくということが重要なポイントであると私自身の経験から感じておりますので、そういったことも踏まえながら、今後も教育の取り組みを進めていければと思っております。

○長谷川生涯学習部長 ありがとうございます。

続きまして、長岡教育長からお願いいたします。

○長岡教育長 改めまして、教育長の長岡でございます。私から思いを語らせていただきたいと思います

教育長に就任する以前から、日本全国で起こっている痛ましい事故に対しまして、私も、一人の親として非常に心を痛めてございました。

私は、市長、副市長と同年代でございますけれども、私どもが育った時代は非常に貧しかった時代でございました。ただ、そういった中で、貧しいながらも、夢があったり、仲間がいたり、それが、今もそうございますけれども、一生の支えになっているような気がしてございます。

一方、今の世の中は、豊かになり、環境は整っているにもかかわらず、将来に夢を持つことがなかなか難しい子どもたちが多くなっているような気がします。

私は就任して2カ月がたちますけれども、着任した際、職員に対して、「教育に課せられた使命は、子どもたちが夢を追う心を育て、その夢を実現する力を育む、それによって生きる力を身に付けさせるということではないか」という話をしたのですが、最近、改めてそう感じているところでございます。

もちろん、私どもの何よりの使命は、学力の向上が第一義的なものだと思っておりますけれども、それ以外にも、子どもたちには札幌の恵まれた自然や文化の中でさまざまな社会体験を感じて積んでほしい、知・徳・体のバランスのとれた成長をしてほしいと考えております。当然、それは一朝一夕に達成できるものではありません。子どもたちが集団の中で多少のあつれきを覚えながら切磋琢磨して、自他ともに認め合い、たくましく育つことができるように、例えば、部活動の振興や体験学習の充実、それから、今、札幌市の新たな取り組みとして、サタデースクールという取り組みもしております。これは、土曜日に地域の方々などを講師として招いて、例えばスポーツや料理教室を開いたり、外国人の講師を招いて他国の文化を学んだり、そういったさまざまなプログラムを学校で行っております。そうした学校の授業だけでは得ることのできない知識を得たり経験したりすることで、生きる力の醸成につなげていければと考えております。私の座右の銘でもあるのですが、鮮明な目標と強烈な意欲があれば結果は後からついてくるということと「夢を持つ、夢を追う心を育み、夢を実現する力を育む」というのは、通じるものがあると思っております。子どもたちに目標を持ってもらって、それを実現する強烈な意思、気力、体力をぜひ身につけていただきたい、ということを念願してございます。

教育委員会は、現場の先生たちも含めて精いっぱい頑張っております。私どもは、よりよい学校教育の推進はもとより、家庭教育も重要だと考えておりますが、今後は、社会全体で子どもたちの成長を助け支えるといった機運も高めていく必要があると考えております。これから市長部局とも一層連携を図り、教育の推進を進めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○長谷川生涯学習部長 皆様、貴重なご意見をありがとうございました。

続きまして、教育委員会を所管する町田副市長からご意見等はございますでしょうか。よろしくお願いいたします。

○町田副市長 それでは、私も一言だけ申し上げたいと思います。

私は、皆様ご存じのとおり、教育次長を2年と教育長を2年、合計4年間、教育委員会で教育行政について関わり、今も副市長として勤めているところでございます。最近、非常に大きな問題意識として持っているのは、少子化の時代を迎え、札幌の人口もこれから減っていく中で、札幌の出生率は1.1を切る切らないという、全国的にも非常に低い数値でございます。

いろいろなところで行われている都市の魅力度ランキングで、いつも最上位の都市として位置付けられている札幌の出生率が、なぜそれほど低いのかということは根本的に考えていかなければいけないと思っております。

そこで、子どもを社会全体で育むという仕組みがこれから本当に必要になってくるのではないかと私は特に強く思っているところでございまして、その中で、教育、生涯学習、それから、地域全体で子どもたちを育てていく仕組みをいかにつくるのかということが札幌市としての大きな行政テーマだと思っております。

引き続き、よろしくお願いいたします。

○長谷川生涯学習部長 ありがとうございました。

最後に、秋元市長からお願いいたします。

○秋元市長 短い時間でしたけれども、さまざまなご意見を頂戴しまして、ありがとうございます。

先ほど山中委員のお話の中にもありましたが、子どもたちが夢を持ち、それを実現する力を我々はしっかりと支えていかなければならないと思っております。先日、JICAの研修でセネガルに行ってきた先生の話聞いたのですが、セネガルは本当に貧しい国ではありますが、日本に帰ってきたときの子どもたちの目と比べると輝きが全然違うとおっしゃられておりました。セネガルの子どもの目は本当に輝いており、その印象が非常に強かったと言うのです。日本は物質的にはとても豊かになってきている社会でありますけれども、今の子どもたちが本当に将来に夢を持って、希望を持っているのかどうかということに対して、懸念を抱かざるを得ないような話だと思いました。

先日、ある小学校の6年生の授業にお邪魔してきましたが、子どもたちは今

の社会的な状況やマスコミの話などの知識はものすごくたくさん持っています。情報量は、我々の子どものころに比べるとはるかに多いですし、そのことに対して意見を述べ、プレゼンテーションをする力は、われわれが子どもに比べるとはるかに優れていると思います。

しかし反面、それを本当に世の中で活かしていけるのだろうかとも感じております。夏休みは無い方が良いと言う子どももいるのです。僕らの子どもころは、もうあさってから夏休みになると聞けばワクワクしていましたが、今はそうではないのです。これは学校教育だけの問題ではありません。そういう子どもたちが置かれている現状、社会について、われわれ大人はしっかり認識していかなければいけないと思います。今の子どもたちはそういう社会情勢の中に置かれているのだということを認識した上で、これからの教育の問題や課題に取り組んでいかなければならない。現場の先生は大変忙しく、子どもたちもストレスの問題ほか多くの課題を抱えています。そのような中でも、社会全体で大事な子どもたちをしっかりと育てていくというまちを、われわれはつくっていかなければいけないだろうと思っております。

これからもよろしくお願いいたします。

本日は、本当にありがとうございました。

○長谷川生涯学習部長 皆様、本日はありがとうございました。

次回の総合教育会議は、10月中を予定してございます。

日程等につきましては、改めて皆様にお知らせしたいと考えてございます。

【閉 会】

○長谷川生涯学習部長

本日の総合教育会議を終了させていただきます。

ありがとうございました。

以 上